

第23回宇宙ステーション利用計画ワークショッププログラム

別紙

開催日：平成13年7月23日(月)、24日(火)、25日(水) 会場：砂防会館 シェーンバツハ・砂防

第1日目(23日(月)) ~国際宇宙ステーション及び「きぼう」の利用をとりまく現状と展望について~

会場	1 F 大会場	
9:30~9:40	開会挨拶	宇宙環境利用研究委員会委員長 菅野卓雄
9:40~9:50	挨拶	文部科学省
9:50~13:00	パネルディスカッション ~「ISS利用の展望」~ ・「ISS計画に関する最新情報について」 ・「ロシアにおけるISS利用計画に関する最新情報について」 ・「ESAにおけるISS利用計画に関する最新情報について」 ・「CSAにおけるISS利用計画に関する最新情報について」 ・「NASDAにおけるJEM「きぼう」の利用準備について」 ・微小重力科学分野研究者からのコメント ・ライフサイエンス分野研究者からのコメント ・討論：CRV及び居住モジュール開発計画遅延によるISS搭乗員3人体制の長期化の危惧について ・まとめ	座長：NASDA 矢代清高 Dr. Kathryn Clark (NASA) Mrs. Tatiana Vasilieva (Rosaviakosmos) Dr. Karl Knott (ESA) Dr. Barry Wetter (CSA) 清水順一郎 (NASDA) 竹内伸 (宇宙環境利用研究委員会微小重力科学専門委員会委員長) 浅島誠 (宇宙環境利用研究委員会ライフサイエンス専門委員会委員長)
13:00~14:00	(昼 食)	
14:00~14:30	報告 ~「「きぼう」利用多様化に向けた取組」~ ・「きぼう」利用多様化のためのパイロットプロジェクト等についてその目的・展望、第1回選定結果等を紹介	説明：NASDA 小沢秀司
14:30~15:30	講演 ~「先導的応用化研究の現状と展望」~ ・活動状況の概括/当該制度の役割及び当面のねらい/今後の展望 ほか	講演：NASDA 宇宙環境利用応用化研究推進グループ研究統括リーダー 澤岡昭
15:30~17:00	パネルディスカッション ~宇宙環境利用の現状と将来 - 宇宙開発と宇宙利用の理念 - ~ ・「宇宙環境利用の現状と将来 - 宇宙開発と宇宙利用の理念 -」 ・「真の地球人(宇宙人)を育成するための学校、ISS」 ・「ISSを文化・教育・社会インフラへ」 ・「仕事場は宇宙そして遊び場も宇宙」	座長：NASDA 宇宙環境利用研究システム長 井口洋夫 初任：中川久定 NASDAアドバイザー(国際高等研究所副所長) 佐藤文隆 NASDAアドバイザー(甲南大学教授) 向井千秋 NASDA宇宙飛行士

第2日目(24日(火)) ~「きぼう」船内実験室等の利用について~

会場	1F 大会場	3F 「穂高」	3F 「六甲」
分科会名	微小重力科学分野分科会	ライフサイエンス分野分科会	宇宙医学分野分科会
座長	座長：宇宙環境利用研究委員会 微小重力科学専門委員会 専門委員長 竹内伸	座長：宇宙環境利用研究委員会 ライフサイエンス専門委員会 専門委員長 浅島誠	座長：宇宙環境利用研究委員会 宇宙医学専門委員会 専門委員 桒中征哉
9:30~11:30	【報告】 実験装置準備状況・実験運用状況予測/ 「きぼう」に先立つシャトルミッション/ 地上研究公募採択状況/第1回国際公 募速報/微小重力科学分野研究シナリオ 改訂/微小重力物理学分野研究シナリオ の検討状況 など	【報告】 「ライフサイエンス国際公募について」 ライフサイエンス国際公募の内容とスケ ジュールについて/実験運用状況予測/ 利用可能な実験装置概要(国内、海外) /公募研究立案のポイント/公募書類記 入の要領 など	【報告】 (2F「穂高」にてライフサイエンス 分野分科会と合同開催)
11:30~13:00	(昼 食)		
13:00~16:00	【パネルディスカッション】 テーマ： 「第1回微小重力科学国際公募の取組」 パネリスト： 1) 各国際パネリストのコーディネーター(NASDA) 2) 東久雄(日本マイクロ重力応用学会会長) 「地上研究公募の方向性」 パネリスト： 1) 鈴木俊夫(東京大学) 2) 栗林一彦(宇宙科学研究所) 3) 只川嗣朗(日本宇宙フォーラム) 4) 小山正人(NASDA) 「微小重力物理学研究分野の進め方」 パネリスト： 1) 北原和夫(国際基督教大学) 2) 石川正道(三菱総合研究所)	【パネルディスカッション】 テーマ： 「ライフサイエンス研究シナリオと重点 研究領域について」 パネリスト： 野田政樹(東京医科歯科大学) 武田洋幸(東京大学大学院) 長濱嘉孝(基礎生物学研究所) 保尊隆享(大阪市立大学大学院理学研究科) Dr.Gary Jahns(Ames Research Center, NASA) 上垣内茂樹(NASDA) まとめ：重点領域の役割、実験装置の考え方、 国際公募と今後の日本の宇宙環境利用 研究におけるライフサイエンス分野の あり方	【パネルディスカッション】 テーマ： 「Human Factors研究分野について」 パネリスト： 桒中征哉(国立精神・神経センター) Dr.David Tomko(NASA) 関口千春(NASDA) Dr.Norbert Kraft(NASDA) 金吉晴(国立精神・神経センター) 黒田勲(日本ヒューマンファクター研究所) 久米稔(早稲田大学) 大島博(NASDA) まとめ：この領域で取り組むべき研究課題 についての意見の収集
16:00~16:05	(1 F 大会場へ移動)		
16:05~17:00	各分科会からの結果報告(1F大会場にて)		司会：NASDA 矢代清高

第3日目(25日(水)) ~ 「きぼう」船外実験プラットフォーム等の利用について~

会場	1F 大会場	3F 「穂高」	3F 「六甲」
分科会名 座長	地球科学・地球観測分野分科会 座長：東海大学教授 下田陽久	宇宙科学・天体観測分野分科会 座長：NASDA 榎野文命	技術開発分野分科会 座長：NASDA 岩田勉
地球科学・地球観測分野分科会 技術開発分野分科会 9:30~12:30 宇宙科学・天体観測分野分科会 9:00~12:30	<p>【講演会】</p> <p>テーマ：「ISS船外実験施設利用の有効性と限界、解決へのアプローチ」</p> <p>発表論文</p> <p>稲谷順司 (NASDA) 「きぼう上の電磁界環境に対するSMILES適合性設計」</p> <p>鈴木睦 (NASDA) 「FTSに関わる2つのフェーズA研究及びSMILESの地上系開発におけるきぼうのゲウリク、テレコについて」</p> <p>水谷耕平 (CRL) 「ISS/きぼう搭載用コヒレト・ドップラライダ」</p> <p>青木忠生 (気象研究所) 「JEM搭載用TERSEによる温室効果ガスの研究」</p> <p>Stephen Voels (NASA) 「NASA Earth and Space Science Utilization on the International Space Station The SAGE III/ISS Mission: Capabilities and Constraints as an Attached Payload on ISS」</p> <p>Gerard J. Daelemans (NASA) 「JEM-EF Payload Carrier System」</p> <p>John Pensinger (California Institute of Technology) 「JEM-EF Accommodation of the Low Temperature Microgravity Physics Facility」</p>	<p>【パネルディスカッション】</p> <p>テーマ：「ISS船外実験施設の総合的利用による宇宙科学と国際協力」</p> <p>パネリスト： 報告内容：「各宇宙機関における準備状況と利用戦略」</p> <p>清水順一郎 (NASDA) V.Jones (NASA) H.Olthof (ESA)</p> <p>報告内容：「ISS/きぼうで計画中のペイロード及び将来の国際協力への提言」</p> <p>R. Battiston (イタリア・ペルージャ大学) 山本明 (高エネ研) D.Muller (アメリカ・シカゴ大学) 鳥居祥二 (神奈川大学) L.Scarsci (イタリア・パレルモ大学) 手嶋政廣 (宇宙線研究所) 清水裕彦 (理研) 松岡勝 (NASDA) G.Fraser (イギリス)・レスター大学)</p> <p>・討論 焦点：国際協力推進の枠組み</p> <p>・まとめ：国際協力推進のための各極の要請事項の識別、ISSCG活動への要望</p>	<p>【パネルディスカッション】</p> <p>テーマ：「フラッグシップと技術開発ロードマップのデザイン」</p> <p>パネリスト： 基調講演： 白井達也 (NASDA) 「宇宙開発ロードマップと将来ビジョンのフラッグシップ」</p> <p>井上一 (ISAS) 「ISSを利用した軌道上超大型X線望遠鏡」</p> <p>松本紘 (京都大学) 「太陽発電基地とマイクロ波電力送電」</p> <p>松本甲太郎 (NAL) 「将来の宇宙インフラとしての宇宙ハンガーとISSへの期待」</p> <p>星出彰彦 (NASDA) 「船外活動及びロボティクス技術の可能性と限界」</p> <p>・討論 焦点：フラッグシップを構成する技術開発事項とISS利用が有効な項目 技術開発ロードマップの内容及び検討の取組み方</p> <p>・まとめ：技術開発ロードマップのデザインへ向けての今後の取組み</p>
12:30~12:35	(1 F 大会場へ移動)		
12:35~13:30	各分科会からの結果報告 (1F大会場にて)		司会：NASDA 小山正人